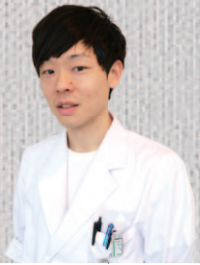


臨床検査技師から説明!

がん遺伝子 パネル検査 について



臨床検査科
病理担当
中島 一樹
なかしま かずき

くす通信をご覧の皆様こんにちは。突然「がん遺伝子パネル検査」とは何かと聞かれて、ぼんやりとは分かるけれど具体的にはどういった検査なのだろう?と思われる方が大半ではないでしょうか。私自身も初めて耳にした時、同じような疑問を抱きました。まずはがん遺伝子検査について紐解いてみましょう。

がん遺伝子検査とは、がんのもつ遺伝子の特徴を調べる検査です。がんに関連する異常を検査することで、治療法の選択に役立つ場合があります。

さらにがん遺伝子検査には、従来の1~2つの遺伝子を対象にした検査と、複数の遺伝子を一度に調べることができる今回のがん遺伝子パネル検査があります。

がん遺伝子パネル検査では、がんの組織を採取、解析装置を用いて、前述した通り1回の検査で多数(多くは100以上)の遺伝子を同時に調べることができます。

がん遺伝子パネル検査の3つの注意点

1 検査を受けるには一定の条件に該当する必要がある

2020年1月現在、がん遺伝子パネル検査の一部は保険診療や先進医療で行われており、研究開発も活発にすすめられています。ちなみにがん遺伝子パネル検査は誰でも受けられるわけではありません。

① 標準治療がない固形がん ② 局所進行もしくは転移があり、標準治療が終了した(終了見込みを含む)固形がんの方と一般的に定義付けされています。

2 検査を受けても遺伝子変異が見つからない場合もある

がん遺伝子パネル検査を行って遺伝子変異が見つかった場合は、その遺伝子変異に対応した薬があれば、臨床試験などでその薬を使用することを検討できます。また、新たな治療法の開発などにつながる可能性があります。

検査の結果、遺伝子変異が見つからない場合もあり、今後の課題となっているようです。

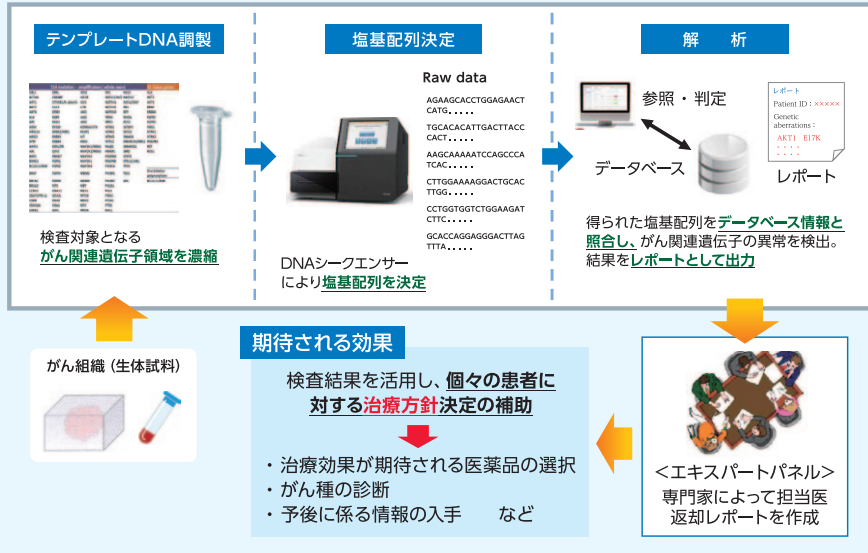
3 検査を受けられる医療機関は限定される

がん遺伝子パネル検査は「がんゲノム医療中核拠点病院」、「がんゲノム医療拠点病院」、「がんゲノム医療連携病院」などで行われており、熊本県では「がんゲノム医療連携病院」として熊本大学病院が指定を受けています。(2020年1月現在)。

日進月歩の医療技術の速度に、我々も遅れをとらぬよう日々精進して参ります。

がん遺伝子パネル検査の流れ

平成30年3月8日
先進医療会議資料
より抜粋(一部改変)



くす通信

第228号
2020年2月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

腫瘍内科より

がんゲノム医療について

臨床検査技師より

がん遺伝子 パネル検査について



2月

「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。

また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。

本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

がんゲノム医療 について

国立病院機構熊本医療センター
がん相談支援室長・
腫瘍内科 医長
やまもと はるかぜ
山本 春風



がんゲノム医療を行うための検査である、「がん遺伝子パネル検査」が2019年6月に保険適応となり、がんゲノム医療が身近なものとなりました。



がん細胞

1. がんゲノム医療とは何か

私達の間では、細胞の中のDNAに含まれる遺伝情報に基づいて作られています。見た目の違いなどは、この遺伝情報の違いにより生じます。

身体の一部から発生するがんも、がん細胞の遺伝情報に基づいて作られており、がんの遺伝情報も個人で違いがあります。がんの遺伝情報が違うことで、同じ抗がん剤でも、効く人がいれば、効かない人もいるということが起きます。この違いの一つが、「がん遺伝子変異」です。医療の発達で特定の遺伝子変異を有するがん細胞を標的とした治療が行われるようになり、大きな効果を生み出しています。このように、がん細胞が持つ遺伝情報の特徴に合わせて有効な治療薬を提供する医療を、「がんゲノム医療」と呼びます。

2. がんゲノム医療でできること

今までは、抗がん剤の効果を事前に予測できませんでしたが、がんの遺伝子変異の有無や種類を検査することにより、事前に効果が期待できる薬の種類を知ることができるようになりました。この検査が「がん遺伝子パネル検査」です。



DNA

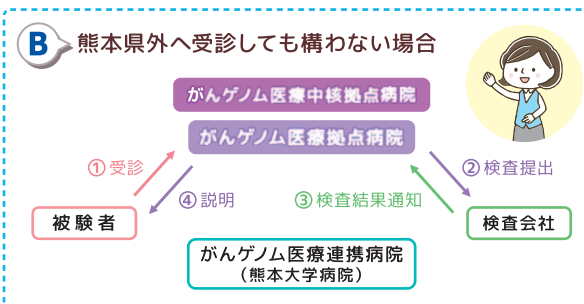
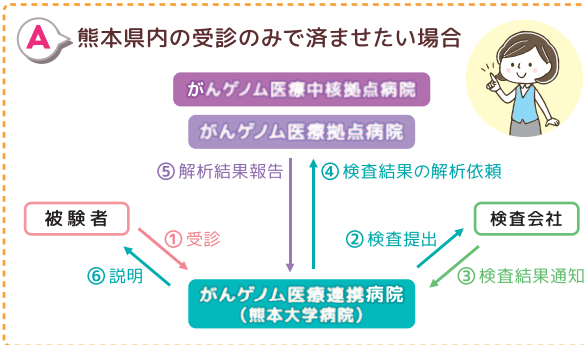
がんゲノム医療は始まったばかりで、研究段階の医療です。したがって、がん遺伝子パネル検査結果により効果が期待できるとされる薬のほとんどは治験薬・未承認薬、つまり保険医療対象外の薬となります。実

際に過去、がん遺伝子パネル検査を受けた方で治療薬の提供に至ったのは10%程度にすぎないと報告されています。

3. がんゲノム医療を受けるにはどうしたらいいか

研究段階の医療のため、実施できる施設も限られています。がん遺伝子パネル検査結果を解析し、候補となる薬を選定できる施設は、国から指定を受けた「がんゲノム医療中核拠点病院」と「がんゲノム医療拠点病院」のみです。実際に候補となる薬の選定はできないものの、前2者の助けを借りることで検査の提出や説明を行う施設が「がんゲノム医療連携病院」です。熊本では、熊本大学病院のみが「がんゲノム医療連携病院」に指定されています（2020年1月現在）。

したがって熊本県内でがんゲノム医療を希望される場合は、**熊本大学病院を紹介・受診→がん遺伝子パネル検査を提出→がんゲノム医療中核拠点病院またはがんゲノム医療拠点病院への解析依頼→解析結果の説明**、という流れになります。



腫瘍内科の紹介

2015年4月に新設された科で、血液がん以外の抗がん剤治療や緩和ケアを専門的に行っています。他の診療科が担当されていて治療方針などに困っている場合には、腫瘍内科が中心となり多職種カンファレンスを開いてアドバイスなどを行っています。また、院内外の緩和ケア対象の方で急遽入院治療が必要となった際に利用できるよう、緊急緩和ケア病床という名称の部屋を2床絶えず確保する体制を整備し、緩和医療の実践にも力をいれています。当院では、2019年度中に新たに「がん総合医療センター」が開設し、地域がん医療向上にますます貢献できるような体制構築を行って参ります。



国立病院機構熊本医療センター

- 診察日 月曜日～金曜日
- 休診日 土・日曜日及び祝日
年末年始（12月29日～翌年1月3日）
- 診察日 月曜日～金曜日

〒860-0008 熊本市中央区二の丸 1-5
TEL 096 (353) 6501 (代表)
FAX 096 (325) 2519
H P <https://kumamoto.hosp.go.jp/>

※ 形成外科の受付は、水曜日以外の 13:30～16:30 となります。

※ 一部の科では、午後に予約診療を行っています。新患、予約のない方の午後診療は行っていません。急患はいつでも受診できます。